

モズク養殖技術交流

水産業改良普及センター

石川貴宣

1. 目的

平成19年度より県では、モズク養殖の安定生産を目指し「モズク安定供給対策事業」に取り組んでいる。事業項目の一つである中層浮き流し式養殖を伊平屋村で取り組むことになっている。しかし、初めての取り組みのため網の設置方法や管理等十分な知識や技術を持っていない。

そのため、事業協力団体である伊平屋漁協モズク生産部会員を対象に、中層浮き流し式養殖の網設置や管理方法を獲得するため、先進地である久米島漁協モズク養殖生産部会と技術交流を行った。

2. 日時

平成20年3月24日（月）

～平成20年3月25日（火）

3. 参加者

伊平屋漁業協同組合モズク養殖生産部会
嘉納秀一郎
伊礼幹弘
大城銀次

3. 視察先

久米島漁協モズク養殖漁場（奥武島地先、東奥武オーハ地先、ハテの浜東側地先）

4. 協力

久米島漁業協同組合
久米島漁協モズク養殖生産部会
指導漁業士 渡名喜盛二
青年漁業士 仲与志 勇

5. 内容

久米島のモズク養殖漁場の現場視察を行うため、渡名喜盛二指導漁業士にモズク養殖漁場を案内していただいた。

最初に、浮き流し養殖現場の東奥武オーハ島地先に行き浮き流し養殖の網や枠ロープ等の設置状況確認を行った。久米島では、イバラノリ式とノリ式の両方で浮き流し養殖の試験を行っている。もずくが生長することによる重量増のため、網の設置水深が深くなるのを防ぐため、水深調整として伸仔棒の取付を行った。視察に参加したメンバーも枠ロープの設置やブイの設置状況について確認を行ったあと、伸仔棒の取付作業を手伝った。

これまで設置状況は、写真や図面でしか確認できていなかったこともあり、現場での状況確認は非常に参考になり試験の実施に向け自信を持ったようであった。

伸仔棒取付後、中層浮き流養殖でモズクと同じ日に張り出した網のあるハテの浜東側地先を視察した。今のところ、中層浮き流し養殖の網とヒビ立て養殖の網の両者において生長や生え方に特に差は見られなかった。

その後、苗床漁場である奥武島地先を視察した。

伊平屋以外の漁場を見たことが無かったようで久米島のイノーの広さとモズク漁場の広さに驚いていました。伊平屋・久米島ともに今期は、沖出し後の生育が悪く、生え方にばらつきがみられるようで、久米島では、オキナワモズクの収穫は例年より少し遅く4月中旬より始めるということだった。

漁場視察終了後、漁協二階会議室において久米島漁協モズク養殖生産部会を対象に沖縄

県水産海洋研究センターと水産業改良普及センターよりモズク養殖に関する事業の情報提供を行った。

水産海洋研究センター須藤研究員より「フコキサンチン含有量の季節変動」について、山田研究員よりモズク養殖振興協議会が設置している水温・照度の計測結果の報告が行われた。

また、水産業改良普及センターより平成19年度より取り組んでいるモズク安定供給対策事業について経過報告を行った。

報告内容について活発の質疑が行われたが、その中で、「最近、モズクに混入する異物に対する毒の有無等について問い合わせが業者からあるため、県で毒の有無について対応して欲しい。」と要望があった。

翌日、モズク加工場を中原盛明工場長に案内してもらい技術交流会を終了した。

技術交流に対応して下さった、渡名喜盛二指導漁業士、仲与志勇青年漁業士、久米島漁協モズク養殖生産部会の皆様と久米島漁協組合長はじめ職員の皆様に感謝申し上げます。



中層浮き流し養殖（イバラノリ式）



伸仔棒取付作業（イバラノリ式）



中層浮き流し養殖（ノリ式）



現場確認後の意見交換